



茂林寺沼湿原 第1回 清掃活動

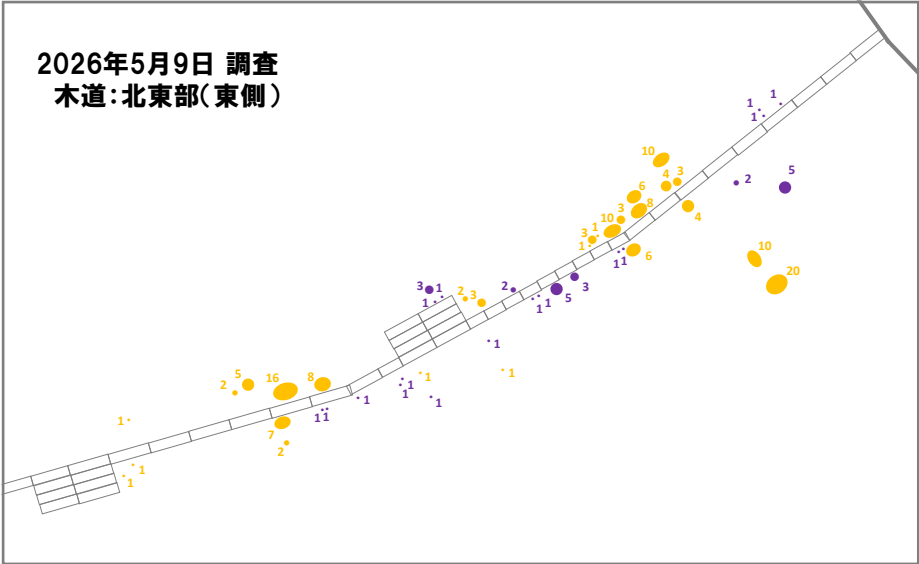
カキツバタで「真っ青だった」 湿原の再生に向けて



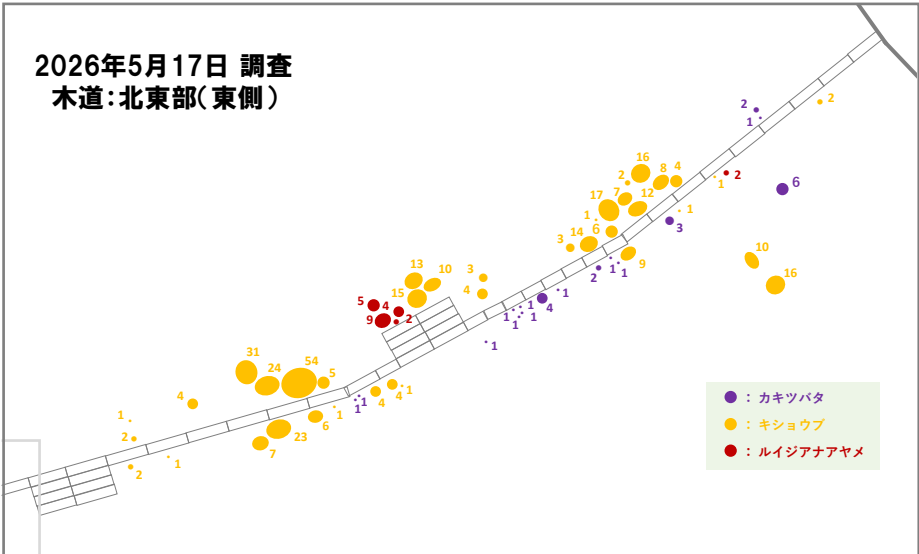
令和8年6月6日

2026年のアヤメ類の開花状況

2026年5月9日 調査
木道：北東部(東側)

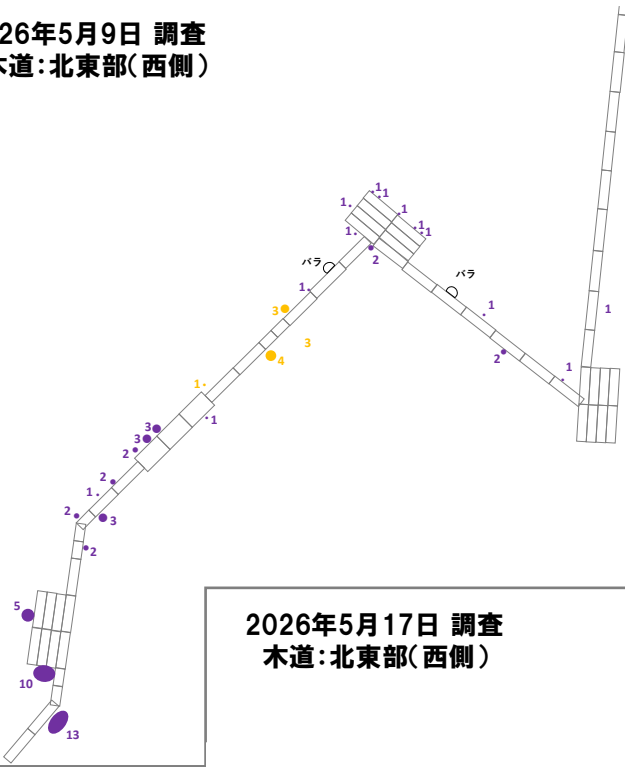


2026年5月17日 調査
木道：北東部(東側)

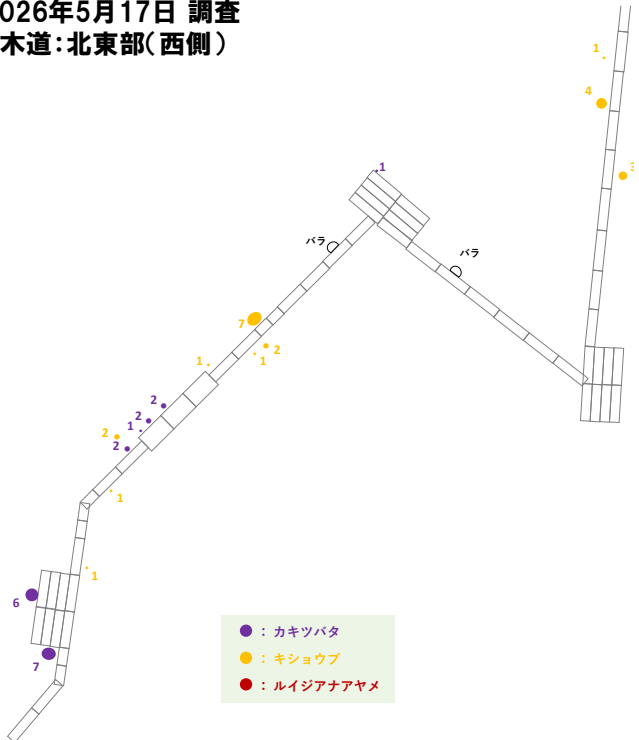


2026年のアヤマ類の開花状況

2026年5月9日 調査
木道:北東部(西側)



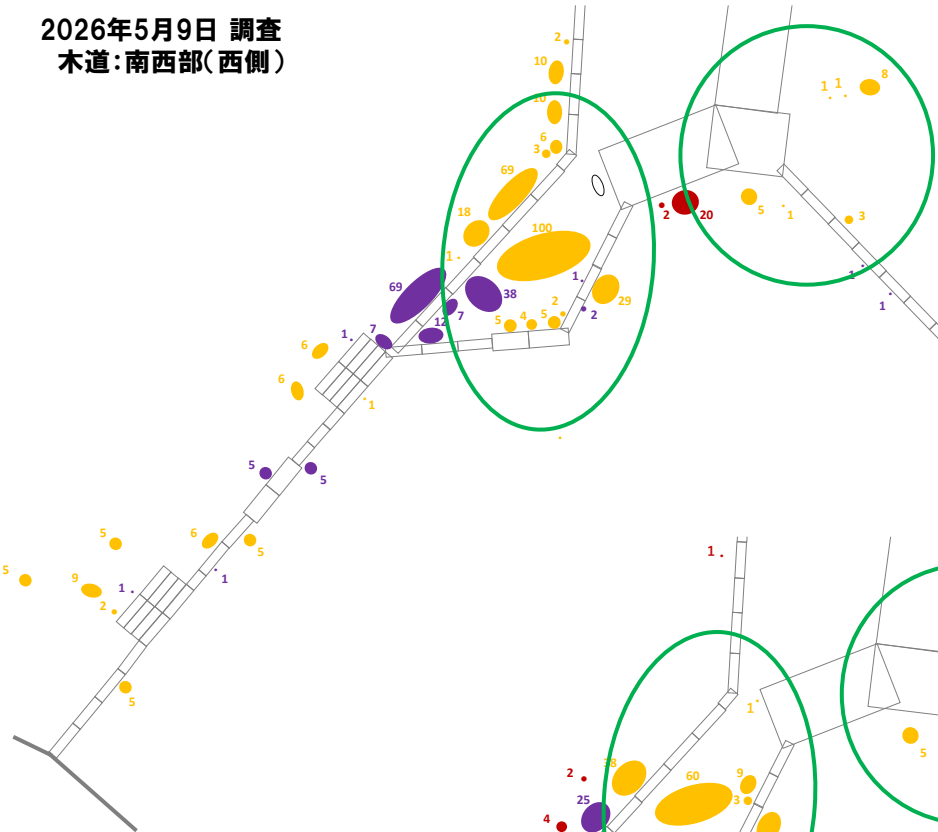
2026年5月17日 調査
木道:北東部(西側)



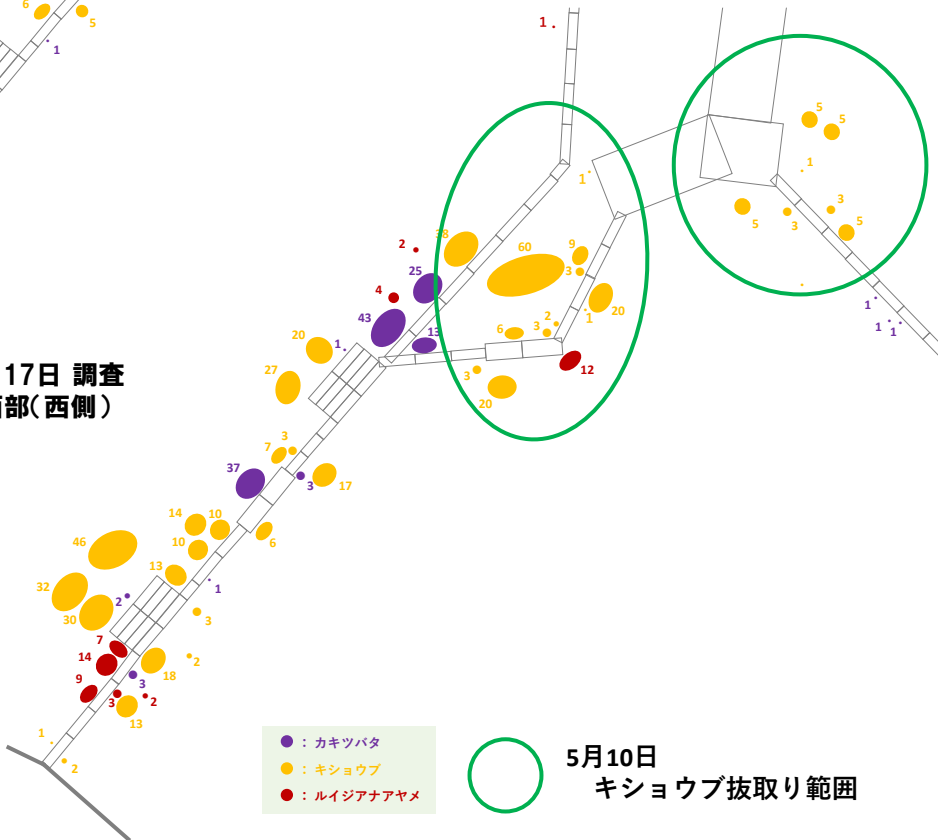
- : カキツバタ
- : キショウブ
- : ルイジアナアヤメ

2026年のアヤマ類の開花状況

2026年5月9日 調査
木道: 南西部(西側)



2026年5月17日 調査
木道: 南西部(西側)



- : カキツバタ
- : キショウブ
- : ルイジアナアヤメ

○ 5月10日
キショウブ抜き取り範囲

2026年のアヤマ類の開花状況



茂林寺沼湿原在来のアイリス

カキツバタ



茂林寺沼湿原を象徴する植物です。かつては湿原のいたるところで見られましたが、現在では、湿原西側の木道沿いで見られます。保全活動の中心になっている植物です。



ノハナショウブ



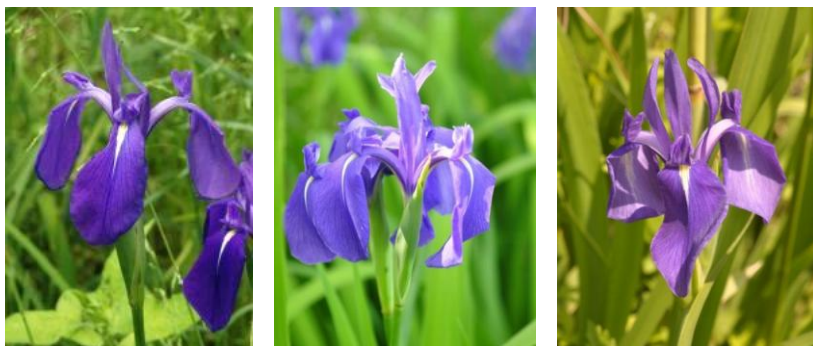
花は赤紫色をしている

花ショウブの原種で、かつては少ないながら湿原の所々に自生していましたが、現在ではほとんど見られなくなりました。在来のものが、中央遠路入り口付近の見本園に保護繁殖しています。



葉は中央の脈が目だつ。さわると出っ張っているのがわかる。

茂林寺沼湿原のカキツバタの花の色のいろいろ



茂林寺沼湿原の在来のカキツバタは株によって、花の色彩に多様性がある。

地域のカキツバタをの全する際の注意

かつてこの地域に自生していた茂林寺沼湿原のカキツバタは、代々受け継がれてきた個性がこの地域の環境にあった生育特性を持っている、遺伝的多様性が保たれた個体群です。

「いずれ菖蒲か杜若」 アヤメとカキツバタの違い



アヤメ

花びらに網目模様がある
湿り気のある草原や畔に生育



カキツバタ

花びらに網目模様は無く、白い筋がある
水気を好み湿原内に生育

外来種のアユリス

湿原内に蔓延ってカキツバタを駆逐してしまう！

キショウブ



1897年ごろ日本に持ち込まれた抽水性の多年生草本で、1.2m程の高さに成長する。環境省が生態系被害防止外来種に指定。



黄色い花が美しいと珍重され、各地でさかんに植栽えられた。

近年、急激に増えはじめた種！

ルイジアナアヤメ



アメリカ南部原産の外来種。変異や他種との交雑が多く、花色の豊かなことが特徴で、これを反映して人工的な品種改良も盛んにおこなわれた。

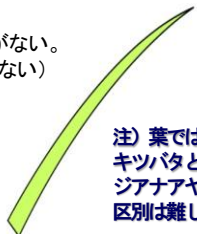


アヤメの4種の見分け方

葉

葉の中央に太い脈がない。
(触ってもあまり感じない)

葉の色は薄め。



注) 葉では、カキツバタとルイジアナアヤメの区別は難しい

幅が太く約3~4cm以上 → ルイジアナアヤメ 外

幅が狭く約3~4cm以下 → カキツバタ

葉の中央にはっきりと太い脈がある。
(触るとよくわかる)

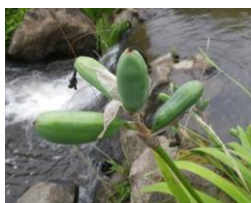
葉の色は濃いめ。



幅が広く約3~4cm以上 → キショウブ 外

幅が狭く約2~3cm以下 → ノハナショウブ

実



果実は上を向く。



果実は下~斜めに垂下がる。(房状に数多く実る)



『カキツバタ』、『ノハナショウブ』

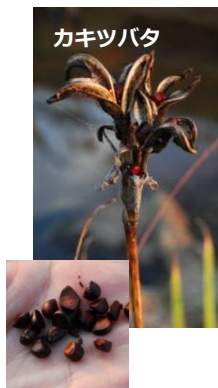
『キショウブ』 外

『ルイジアナアヤメ』 外

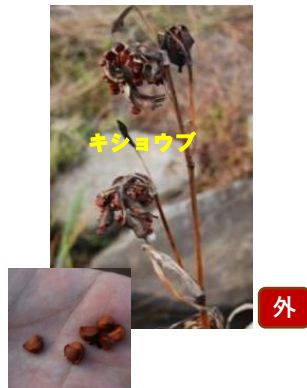
種類によって果実の形や開き方、種の色などが違う。



- ・果実は小さく丸みがあり、上部だけ開く
- ・種子は平べったい



- ・果実は中くらいでやや細長く、反り返って開く
- ・種子は角ばり、厚みがある



- ・果実は丸みがあり大きく、崩れるように開く
- ・種子は角ばるが、丸みと厚みがある

キショウブはなぜ強い？



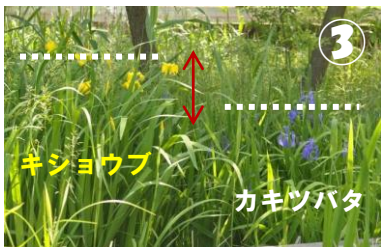
キショウブは最初は数株
だったんじゃが、今では
カキツバタよりずっと多
くなってしまったんじゃ。



キショウブは寒さに強く、
冬でも枯れない



冬に枯れる
カキツバタとは
早春の時点で
こんなに差が...



キショウブのほうが草丈が高く、
大株になる



キショウブの果実はカキツバタより大きく、
数も多い



その結果
.....

キショウブ群落に
飲み込まれそうな
カキツバタ(○印)



何もしなければ...一面キショウブ群落に

駆除すべき湿原に繁茂する外来植物

キク科

環境省：重点対策外来種

セイタカアワダチソウ [背高泡立草]

Trichosanthes cucumeroides



生長すると2～3mの高さに達する多年生草本。北アメリカ原産で、日本には1897年に侵入し戦後各地に広がった。一度改変された土地を中心にいち早く侵入し乾燥にも強い。周辺の植物の成長を抑える物質（アレロケミカル）を放出することが知られている。



黄色い花を付けていない若い株は、周辺の植物に紛れて見つけにくい



若い株の茎は赤紫色をしているものが多い

春から初夏の若い株は、引き抜くのが簡単で、根こそぎ抜き取れる。

オオブタクサ [大豚草]

Ambrosia trifida



一年生草本だが、生長すると2～4mの高さに達し茎も木本のように固くなる。北アメリカ原産で、日本には1952に初めて確認された。夏から秋には、多くの花粉を放ち「花粉症」の原因になる。種子は、土中で何年でも休眠できる。



若い株



若い株

若い株の葉は裂けない。
葉は茎に対して対になって付く
少し大きくなった若い株。
裂けた葉を付ける

夏頃になると草丈が1mを越え、茎が木化し、鎌を使っても借りにくくなりますが、春から初夏の若い株は、引き抜くのが簡単で、根こそぎ抜き取れます。

また、一年草なので、実をつけ種を落とす前に、抜き取ってしまえば、基本的に翌年からは生えることがない。

「茂林寺沼湿原生物調査研究会」 は、毎月第3日曜日に開催しています。

2021年4月から、「茂林寺沼湿原生物調査研究会」の活動が始まりました。茂林寺沼湿原の自然に関心のある有志で、観察会などを中心とした活動をしているサークルです。毎月第3日曜日*)に開催している自由参加の活動ですので、関心のある方はご参加ください。

次回は、6月の21日です。活動を通じて、湿原の植物図鑑や昆虫図鑑を作成していきたいと思っています。



*) 活動日は天候等の都合で変更(順延)する場合がありますので、ご注意ください。(「もりん爺のブログ」にて確認ができます。)

もりん爺のブログのお知らせ

茂林寺沼湿原の観察会や保全活動などのイベント情報を含む、湿原の自然に関する情報が発信されています。ぜひ、積極的にご覧ください。

<http://morinjii.hatenablog.com/>

または、

もりんじい

検索

で見られます。

茂林寺沼湿原に関する情報や観察会等のイベントへのご感想も、このブログにお寄せください。

キショウウフバスターズ

近年、猛烈な勢いで茂林寺沼湿原に
広がっている**外来種・キショウフ**。

湿原本来の景観を守るため、
大々的に**駆除作業**を実行します。



- **とき** 令和8年6月6日(土)
午前10時30分～12時頃
- **場所** 茂林寺沼湿原(茂林寺境内集合)
- **汚れてもいい服装でご参加ください。**

主催：茂林寺沼の自然を守る会

共催：館林市教育委員会文化振興課

協力：アサヒ飲料(株)、(株)足利銀行、(株)NEW METABOLISM、
無印良品館林美園店、群馬県年金受給者協会東毛支部
館林地区会、あすか会、堀工区、県立大泉高等学校、
武蔵野大学、館林商工高校、茂林寺沼湿原生物調査研究会

編集：(株)地球工作所